

ホルトム博士の諾冉二神に關する意見と

聽きて

中山太郎

全体私は日本の神話といふことに就きましては今まで纏まつた意見を發表したことはないので、之には二つの理由があるのでございます。唯今加藤理事から御紹介がありましたやうに専ら私達のやつて居りますのはエソングラフイとでも申しますか土俗といふことを研究して居りますので、唯た神代の巻なり若くは日本の古典なりに、吾々の遠い祖先の信仰がどういふ風に現れて居るか、どういふやうな思想が現れて居るかといふことだけを切々に研究して居りますので、別段纏まつた意見を發表したことは今までのないのです。それは二つの理由があつて、第一は纏まつたことをいはずとすると誤解を受けることであります。今晚御集りの諸君の間にはさういふ御方は一人もございませんまいが、どうもまだ日本人達の多くの部分は傳説と歴史といふものを混同する嫌ひがあるのでございます。私達が是は傳説である。是は道話であるといつても斯ういふ風の人達は承知をしない。さういふことをいつては不敬になるとかさういふことをいつては神様の威徳を傷けるものであるとか、誤解を受けることが一つ、是が爲に私達は言はむと欲して言ひ得なかつたのです。もう一つの原因は私達のグループの中にも、又私としまして

も日本の神典といふものに對して是が定論とか定説とかいふものが決して居りませぬので、慙ひのことを申し上げますといふことは宜くないから、斷片的には意見を當學會でも申し上げたことがありますし、又各所の學會其他の所で意見を申し上げたことがございますが、纏まつたことはいないのでございます。隨て今晚の私の話も纏まつたものは一つもないので私の説は殆ど無いといつて宜いのです。大体先輩若くは友人間に於ける説を皆様に御収次して私は斯う考へて居るといふことだけを申し上げる次第でありますから、甚だホルトム君に對しても申譯ない次第であります。日本の現状はホルトム君のやうな自由をまだ與へて居らぬのであります。私の極めて親しい友人で矢張り外國から來て居る熱心な日本の研究者で唯今小樽の高等商業の教師として行つて居りますが、此友人などは思ひ切つた大膽な無遠慮な高等批評を我神代の卷及び古典といふものに加へることが出来るのであります。若しさういふやうなことを私が仮に言つたとすれば必ず問題になる。それは外國の御方だからといふことで皆さんも割引をして呉れるのですが、私がそれを述べたとすると問題になる。問題にはならぬとしても問題になることを恐れる。隨て私の今晚申し上げますことは前回のホルトム君の大膽な放膽な御議論に較べると、どうも靴を隔て痒き所を搔くといふ嫌ひがございませうが、是は今の有様では據所ないこと、皆様も御勘辨して下さるより外仕方があるまいと思ふのであります。それで申譯ばかりして居るやうですが、私は此前ホルトムさんの演説を聽きに參りました時には既に大分話が進みまして、約三分通りといふものは聽落したてござい

ませう、残り七分位を私は聴いたのでございませうが、全体初めから終ひまで聴きませず且又速記の拜見も致しませぬで批評といふことを申すことは甚だ大膽なことですが、それも暫くホルトム君并に諸君の御許しを願はなければならぬ所でございませぬ。

ホルトム君の諾冉二尊を天の父地の母といふ風に見てなかく、微に入り細に亘つた御研究を批評する前に、現代の人間がどういふ風に日本の神話を取扱つて居るかといふことに就ても申上げて置きたいと思ふのです。是は明治以前に就ては姑く措き、先づ現代の所では三通り位あるかのやうに思はれるのです。新しい學問を以て古き古典を解釋する方法とでもいひますか、若くは學説とでも申しますか、それに約三色位あるかのやうに思はれるのです。第一は専ら高木敏雄君の説で是は全く比較神話學の立場に立つて、さうして日本の神代の總ての現はれた事實を解釋しようといふことで、御承知の通り高木君の比較神話學といふ一つの書物もございませぬし、其後色々雑誌に現れまする高木君の立場は皆それでございます。隨て素戔嗚尊は嵐の神であるとかいふやうなことを斷定的にあの人はいつて居られます。第二は白鳥庫吉博士の説でございませぬ。是は私が直接聴いたものではございませぬが、津田左右吉君の「神代の新しき研究」といふ書物の序文に依りますと、日本の神代の卷といふものは或時代に或目的を立て全く創作されたものである、斯ういふ立場に立つて居られるといふことが書てございませぬ。成程さういふ風な學説も立てれば立てられないことはないでしやうが、然し私はさういふ説には賛成は致しませぬ。

其後神道談話會でございましたが白鳥博士の御話を承つたことがありました。其時には「禊の話」をするといふことで案内を受けて参りました所が、何か急に模様替へになりました。今晩は禊の話はしない、其代り「日本に於ける龍の信仰」といふやうなことを御話しようといふことで色々御話がございましたが、其御話の中から推測すると矢張り高木君と似たか寄つたかの説で比較神話學に依て日本の總ての事物を解釋して行くことで、素戔嗚尊は暴風雨の神で暴風雨をシンボルとしたものである。又奇稻田姫といふは實つた稻を神格化したものである、豊玉姫といふのは眞珠であるといふ御説がございまして、是も稍々高木君のに近い説なのであります。でさういふ風に色々ございしますが、私は是等の説には實は賛成をしないのです。隨て此間のホルトム君の御話にも俄かに私は賛成を致し兼ねるのでございします。其事に就ては後に尙ほ精しく申上げる積りですが、もう少し前文を私にいはして貰ひたいと思ふ。ホルトム君の説に對する批評といふのはほんの僅かしかないのでありますからそれだけをいふと一分間位で済んでしまひますから前置をもう少しはして貰ひたいと思ふ。第三は津田左右吉君の説です。

それから何といふ言葉で言現はしたらば適當でありますか、諾冉二尊が神典に現れたことに就ては色々があるやうであります。是も明治になりました色々説を唱へた人がありますが、大凡四つに分けることが出来ようと思ひます。一つは御承知でございませうが織田得能といふ人、是は氣の毒

な未路を遂げた人で佛教大辭典編纂中氣狂ひになつて病院の中で狂死してしまつた人ですが、織田君の説に依ると、織田君は印度の方から持つて来て、伊弉諾といふ神様に就ては印度のどういふのですか婆羅門ですかイザナといふ神様であつて其神様から來たのだといふ、それを力説して居りますが、勿論これは信用出来ない、又私達も直に受入れることも出来ない。是は偶々イザナといふ言葉が印度にあつて、それが伊弉諾の語音と通じて居るといふやうなことに立脚した極淺薄な議論で、殆ど木村鷹太郎君の論と餘り選ばない議論だと思ひますから、是は深くいふ必要はございません。其次は今晚書物を持つて來れば宜しうございましたが、持つて參りませぬが、明治二十七年の多分十二月と思ひますが、大八州學會といふ學會から出た雜誌がございます。其雜誌の中に名前を一寸失念いたしました、伊弉諾伊弉冉尊は神漏岐神漏美尊のことをいふのであるといふ説を立て、居る、是は私は傾聽すべき説と思つて居ります。伊弉諾伊弉冉は漏神岐神御美の別名で別段伊弉伊弉冉といふ神様があつたのはでない、唯便宜に依て彼處に出したと色々材料を集めて三回か四回かに互り諾冉二尊考といふ題で載つて居りました。是は前の織田君の説のやうに鼻でフーンとあしらふことの出来ない説と考へて居ります。其次は津田敬武君の神道起原論の説です。是も又々進歩した説で、此か意味を擴充なして行くこと丁度ホルト君の説と合致するのですが、津田君も矢張り私達と同じ立場に居ると見なしまして、もう少し突込んだら宜いと思ふ所を突込み得ない、矢張り、私達と同じ立場に居られるのであらうと思ひます。兎に角津

田君の神道起原論を讀んで見ると、諾冉二尊は天地に配合すべく、陰陽に配合すべく、又乾坤に配合すべきものであるといふことを説かれて居ります。是は伊弉諾冉尊を天とし伊弉尊を地とし、又男神を乾し女神を坤とし、又男神を陽とし女神を陰とするといふ風にすると、諾冉二尊は天地の父母に配合することが出来るといふことを津田君はいはれて居る。此意味を擴充すると丁度ホルトム君の説と全然同じ説になるのですが、津田君はそれだけしかいつて居られませぬ。父母に配合し天地に配合し陰陽に配合しそれ以上はいはれない。結論としましては要するに諾冉二尊を天地陰陽乾坤父母といふものに配合したのは専ら支那の陰陽五行の説を受けて居るであらうといふことを述べられて居ります。其次は津田左右吉君の説であります。津田君——左右吉君の方であります——は斯ういふことを述べて居られる。諾冉二尊といふものは全く古事記なり若しくは書記なりを編纂する時に或必要があつて拵へ上げられた所の神様であると斯ういふのでございます。決して實在した神様ではない、又或場合に於ては其或必要があつて作られる以前には諾冉二尊の信仰といふものは國民の間に無かつたのである。斯ういふことを述べられて居る。それではどういふ必要があつて諾冉二尊を作られたかと斯ういふと、古く我日本の國に一種の大陽崇拜といふものがあつた、是は大分議論もございませうが、兎に角津田君はさういふ風に見て居る。それで太陽を天津日嗣の先祖であるといふ信仰は吾々の先祖の間に念々相續された一大信仰であつて、此日神を天津日嗣の遠き天とするといふ信仰から爰に諾冉二尊の必要が起つて來たのである即

ち日本の國家の總てが血族主義であるといふことでなければ承知が出来ない、總てのことを血族關係で行かうといふのが國家の成立の要素であるのに獨り日神の父母がないといふことはない。日神にも父母があるといふことを知らせる爲に、爰に諾冉二尊を製造したのである。露骨にいへば製造したのであるといふことを津田君は述べられて居るのであります。私の意見は是であります、津田君の説は私の意を得て居るものであると思ふのであります。私も津田君と同じやうに諾冉二尊といふものは日本の古事記なり書紀なりを編纂される場合に、唯今申しました日神を天津日嗣の遠き祖とする必要、唯今申した血族主義を明かにして行く爲に紀記の編纂者が拵へたものではなからうかといふ説を探りたいと思ふのであります。

先づ此説に就て私が考へることは、私の讀みました文獻の間には諾冉二尊が天照大神の祖神であるといふにも拘らず此神々に皇祖神といふことを被せた例が洵に少いのであります。例は宣命を讀んで見ましても延喜式の祝詞を讀んで見ましても、一ヶ所も無いのでございます。又更に古事記若くは書紀其他のものを讀んで見ても洵に少いのです。其例は先頃の祭祀研究會で國學院の三矢先生が「神漏岐神漏美の信仰」に就いて御話下さいましたが、其際に皇祖神といふことは神漏岐神漏美の尊か、さうでなければ天照大神であるといふことを統計的の數を示して御話下された。例へば神漏岐神漏美と兩方を記したのは古事記は七つあるとか、若くは書紀には六つしかない、若くは宣命には幾つあるとか、祝詞

には幾つあるとか又天照大神御一方をいつたのは宣命には幾つあるとか、古事記には幾つあるとか、書紀には幾つあるとかいふやうに精しく數を擧げて御話して下すつたのでございます。唯今申上げましたやうに紀記其他の文獻に徴するに諸冉二尊が皇祖神といふ待遇を受けて居らない、是はごういふのでございませうか、若し古事記書紀なりに日神の祖神であつたならば皇祖神といふ言葉を神漏岐神漏美の神であるよりは諸冉二尊が受けて居らなければならぬ、受けて居らぬのは此諸冉二尊が皇祖神でなかつたといふ證據ではないかと斯う私は考へるのであります。其次に考へなければならぬことは、此諸冉二尊は日本の國土を産んで居りますけれども、日本の人を作つたといふことが一つも書いてないのであります。是は何を見ても書いてない。日本の國土を産み成したといふことは明かに紀記にも書いてありませんが、人間を作つたといふことは一ヶ所も書いてない。是も餘程諸冉二尊の神典上に於ける地位——地位といふと大分失禮に當りますが、——を考へる上に注意しなければならぬことであらうと思ひます。國土を産むといふことは極めて抽象的觀念であります、國土を産む以上は其處に人類も居つたといふことに考へさせるのであります、人民其者青人草其者を産んだといふことは一向書いてない。是も私は諸冉二尊の神典上に於ける地位といふものが作られたことにならうと考へる一つなのであります。斯ういふ風に考へて行きますと、最前考へました一つの問題に逢著するのであります。さういふ風にいふと、それでは記紀なり何なりの中に伊弉諾伊弉冉尊の御隠れになつたといふ場所、若くは葬つた

御陵があるではないか、それは中山ごういふ風に解釋するかといふ御叱り若くは御質問があるたらうと思ひますが、此が最前私が申上げましたやうに傳説といふものが事實を産み、又事實が傳説といふものを産むといふことになるのであります。是は何方かといふと私の専門のことでありますから、其事を述べるに私の得意になつて、それは大分長くなりますから略しますが、私には出雲國の比婆山に葬り奉るとか若くは紀州の有馬の村に葬り奉るといふことが記紀の兩書の中に記されて居りますが、私には信することが出來ない、それは説話といふものである、歴史上の事實でないことを斷言し得るのであります。でありますから私の立場からいふと葬られた御陵はあつても私はそれは一向差支ないと思へて居るのであります。先づ其位のことにして置きます。斯ういふやうな譯で私に諾冉二尊の神典上の地位はどうも私にははせるといふと、外の神漏岐神漏美の尊に較べて見ると力の弱いものゝやうに考へられるのであります。

ホルトム君の此間の御説は至極結構な御説であります、是は比較神話學といふ立場の上から見ますといふと、同君が御解釋するやうに解釋することが學問的でもあるし且又あゝなければならぬと斯う信じて居りますが、唯だ私達の立場から申しますと、ホルトム君の御説は較々日本國民性といふものを閉却した嫌ひはなからうか、斯ういふ風にいふことが出來はせぬかと思ふのであります。比較神話學といふ立場を堅く御守りになる爲に、較々日本の國民性若くは日本の古代民族の信仰を幾分軽く見たとい

ふ傾がりありはせぬかと斯う思はれる。全体日本の開闢説といふのは二通りあるやうに思はれる。古事記を見ますると初發説とでもいふ説を立てることが出来る。其他に好い術語がありましたら變へることは差支りませぬ。之に反して書紀は裁判説を執つて居る。天地裁判せざる時とある。是は私が申すまでもなく皆様御承知でありませうが、諾冉二尊に就て直に想起される所のは支那に行はれた盤古説の影響であります。即ち盤古といふ一つの神といひますか偉人、若し之を加藤さんの御言葉を籍りていふとカルチュアヒーローとでもいひますか、支那の盤古といふものが諾冉二尊の上にも濃厚な影響を與へて居るやうに思はれる。是も色々支那の本などを讀んで見ますと要するに二つに分けることが出来て一つは鶏子説話とでもいひますか、鶏の子即ち卵ですが、鶏子説話と化成説話と分けることが出来ませう是は支那の淮南子といふものをそつくり持つて來たといふのでありますから、支那に於ける二つの分れた思想を一つに取込んでしまつたといふので同じ盤古説でも矛盾があるのですが、兎に角其矛盾を日本の諾冉二尊も非常に受けて居るのでなからうかと斯う思ふのであります。例へばホルトム君の御言葉でございましたが、伊弉冉尊が伊弉冉尊の黄泉國に行かれたのを御慕ひになつて御出になつて、歸り掛けに醜女に追はれて穢れに堪へず頭髮に差して御出になつた櫛を取つて投げた所が筍になつた、桃になつた、ホルトム君の御説では天の父、地の母といふものから何か植物の發生とか若くは化育といふやうな意味合の御話になつたやうに私は記憶して居りますが、私達は矢張り其處が支那の思想を受けて居つて縦し

んば筈にしる桃にしる支那の古い土俗の上から、あゝいふ植物が、一つのマジツクの働を有つて居つて、禍を避けるごか福を招くごかいふ信仰があつて矢張り日本の古代民族が、それを信ずるか若くは影響を受けて、彼處に書入れたものと斯ういふ風に私は解釋したいのです。隨てホルトム君の説は洵に學術的な立派な研究であります、唯だ日本の古代民族の信仰といふものを較々軽く見たといふ嫌ひがありはせぬかと斯う私は考へる。

尙ほ諾冉二尊の天地創造説に就て思合せなければならぬことはアイヌの神話といふもの、影響を受けて居ることあります。是は御列席の譯君が御承知でありませうから、深くは申上げませぬが、アイヌの唯今遺つて居る民族の中に言傳へ、聞傳へ、語り傳へて居る説が澤山這入つて居る。殊に著しいのはニハクナブリと申します鶴鶴の尾を叩くを見て交りの道を覺けたアイヌの口碑があります。是は日本の説がアイヌに這入つたかと思ひましたが、矢張り古くアイヌの説があつて、それが日本の記紀の古典に加へられたといふ風に見るのが宜しからうと思ふ。

尙ほ次に併せ考へなければならぬのは此前ちよつと加藤理事から其御説がございましたが、琉球に矢張りオモロゴといふものがありますが、オモロゴなどに遣つて居る説が幾分諾冉二尊の天地創造説に影響して居りはせぬかといふことを考へて見なければならぬと思ふのであります。例へば加藤さんが仰せられた通り、アマリキヨ、シネリキヨ若くはギンマモンなりキンマモンなり琉球の天地を開闢したといふ説

話は諸再二尊の説より古くあつたのではないかと私共は考へて居るのであります。是は現代の琉球に於ける琉球神道といふものを歸納的に考へて行つてもさう考へなければならぬと思ふのです。

要するに私の話は是で終つて居るのですが、ホルトム君の御話に對して吾々日本人が感謝しなければならぬことがあるのであります。是は何かと申しますと、全体日本の神典を比較神話の立場から研究する場合に於ても常に閉却され易いのは天象の問題であります。雨とか風とか若くは雪とかさういふやうな天然的に關するものが動もすれば閉却され易い問題であつて、其處に目を着けた人はないといつても宜いのです。最前申しましたやうに近は白鳥博士なり若くは高木君なりが、素戔嗚尊は暴風雨のシンボルであるといふ説を唱へて來ましたけれども、それは極僅かなことで、更に進んでホルトム君のなされたやうに微に入り細に亘つて、日本の自然界を以て神話を解釋されたといふことは始めてあつて、是はホルトム君の説は日本の神話を解釋するエボックになると思ふ。是は吾々日本人が同君に感謝しなければならぬ一点であらうと思ふ。外國の人が來ても横濱日光奈良左様ならぬといふ風で殆ど日本を駈足で通つて行つて、日本の民族は斯うであるといふ淺薄な批評をするに反して深くホルトム君が吾々の難解として居る古代の神典を御讀み下さいまして、さうしてさういふ新しい説を述べて吾々に有益な研究暗示を與へて下さつたことは感謝しなければならぬことであらうと思ふ。殊に今晚多數の御方にはさういふ人はありますまいが、どうも日本の神典を解釋するに當つて古き殻に這入つて居る。是はさうして

も古き殻を打破らなければならぬ時代に來て居る。私が改めて爰で申すまでもなく疾くに破られて居らなければならぬ筈であるに今に破られて居らない。どうぞ諸君は十分に研究をされ啓發をされて既に殻を破つて居られませうから、諸君の御知り合に殻を破つて居らない方があつたならばホルトム君の御説を御傳へになつて本當に神代の卷を研究することを御勧め下されむことを希望する次第であります。先づ斯んなことであります。洵に御耳を汚しまして失禮いたしました。

x x x x x

○河野省三君。 諾冉二尊が人間を産まないといふ御話であります、人の祖たる神様を産んだから其中に含めても差支ないと思ふ、それから絶妻の所で一日に云々殺せば一日に云々産むといふ前後の關係からいへば其の人を産んだと思ふはあの中に加はつて居ると見て宜いと思ふ

○中山太郎君。 それはいへないと思ふ、伊冉尊の詛ひの言葉に千人の子供を殺すといふと千五百人の子供を産むといふ、あれは例にしか引けないと思ふ、伊冉尊が子供を産んだといふことにはならぬと思ふ、千人殺すなら己は千五百人産んでやるぞといふ例である。私は國土を産むといふ抽象的のことがあるから、それから人間を具体的に拵へるといふ所があつた神様の働きとしては不十分ではないかと思ふのです、それが矢張り私の考の幾らか要部といふか引入れることが出來はしないかと思ふのです。

○河野省三君。 唯だそれに當ることゝ思ふのです。

○安原清輔君。三貴子を産むといふこともありますから言葉が無くともそれはあると思ふ。

○中山太郎君。抽象的に國土を産む、唯今ホルトム君の説を聴いて見ると、諾冉二尊の影が薄くなる、斯ういふと語弊があるか知れぬが、天神、高木神々からの使命を受けて其使命を果してしまふと影がぼんやりになる、さうすると私のは影の薄くなつた方から説いたことになるのであります。

○安原清輔君。私は遅刻して濟みませぬが、伊弉諾伊弉冉は日の神、月の神の別名と考へて居りました、日月の働きとして萬物が生成化育する。天工を説明する爲にあゝいふ神名が出来て國産み島産み人産みの功を喫つて男神の方は日の少宮といふ太陽に御歸りになり、女神の方は黄泉の國、月に御歸りになつた、詰まり日月の神と考へて居りましたが、何かの機會に伺つて見たいと思ひました、それから伊弉諾伊弉冉尊の皇祖といふことが無いといふことでありますが、禊の祓にはあるのですが………

○中山太郎君。それは一ヶ所あるのです、延喜式の祝詞には無い、延喜式若くは宣命の中には無いといふのです。

○ホルトム君。神漏岐と神漏美のことは何處に書かれてありますか

○中山太郎君。大八洲學會雜誌、明治二十七年の十二月頃であります、此説では神漏岐神漏美の別名であらうといふのであります、其説は参考しなければならぬ説と思つて居ります

○安藤政次君。今の御話は根本は字の解釋に依つて想像されたら或は國土を造るといふことが分り

はせぬかと思ふ、産むといふことを解釋して行くこと分りはせぬかと思ふ、御承知の通り本居翁などは、もつと前に創造があつたといふ説もありますし、それから私何時でしたか神學辨説とかいつて御維新前
に出來たものと思ひますが、佐々木何とかいふ人の著ですが、本居翁を駁した書紀中心説であります、之
に天地の造られざる先といふ古事紀の序文がある、凡神説の解釋になるやうな議論を吐いて居りますが、
さういふ点からいふと、人を造つたとか國土を造つたとかいふことは問題で無くなつて行くのですが、
私の考では産むといふ事が深く關係を有つ意味であらうと思ふのです、創造といふことはすつと前のこ
とで諾再二尊の前は進化論や創世紀などの始まりのやうな神々のことを考へると非常にある、寧ろあそ
こは神に擬して書いたと私は思ひます、それから諾再二尊の方は反對に天象を擬して寧ろ人間の歴史を
書いたもの……(中山太郎君「それではホルトムさんの説になるのですな」と述べ)……それから伊弉
諾伊弉冉といふことは、「いざなふ」「いざなふ」といふやうに日本の言葉で起りに使ふ言葉で、
ごなたか鯨といふ説がありました、それよりも「いざなふ」といふことがあるから、其方は兩方共通です
から初りといふことに取つて、「ナギ」といふ木がありますが「ナギ」といふ木は初りの女といふ風に
矢張りヘブライの傳説である

元々集

皇天之受命也、不可以智爭、不可以
力競焉、印度支那王種不常、至啓瓊
籙者、皆受於天、況於繼日神之跡居
天皇之尊哉、傳三種寶器、首八州之
神靈、此非少絲也